

# 児童の主体性・自律性の育成を目指した チームティーチングによる学びづくり

学籍番号 209204

氏名 川上 紗希

主指導教員 平井 美幸

## 第1章 緒言

本実践課題研究は、多様な子どもたちの学びの充実に向けて、A小学校において大学院生かつ教員としての立場から自分自身ができることを模索し実践しようという動機のもとで、チームティーチングにおけるT2としての教育実践に着目し、児童の主体性・自律性の育成を目指した学びづくりを探究することを目的に推進した。

## 第2章 学校教育における主体性・自律性に関する文献研究

日本の学校教育における子どもの主体性・自律性に関する共通認識を図るため、子どもの主体性・自律性の操作的定義を明らかにすることを目的として文献研究を行った。

主体性は「動機によって学習に関わったり自己の考えをもとに能動的に課題解決に取り組んだりしようとする態度や行動」、自律性は「学習の目標達成に向けて学習過程を内省し、自己を調整しようとする態度や行動」と操作的に定義された。学校教育における主体性・自律性には、ある程度の水準や幅、深さがあることが示され、子どもの主体性・自律性に対する共通認識や共通理解を図り、学校教育活動を推進することの必要性が示唆された。

## 第3章 児童と教員の相互作用から児童の主体性・自律性を捉えることを目指した教育実践の検討

児童と教員の関わりや相互作用という視点から個々の児童の主体性・自律性、児童の主体性・自律性を引き出す教員のはたらきかけ、T2の立場から得られる気づきは何かについて明らかにすることを目的として、プロセスレコードによる教育実践の検討を行った。

児童の主体性・自律性を引き出す教員のはたらきかけとしては、児童の内発的な動機や意欲を引き出し、情緒に寄り添う関わりや評価基準や本時の目標にとらわれない評価と改善によって学習環境をコーディネートすること等が、チームティーチングにおけるT2の立場からは、T1や児童との相互作用の中で学級集団への学習指導と個別的援助を両立させていくことの必要性とその難しさが示唆された。また、児童の主体性・自律性は、他者との相互作用的な関わり合いの中で観察され、主体性は児童が自ら活動に取り組むプロセスにおいて学習内容に対する意味づけをしようとする側面や自分の関わりや成功を見出そうとする側面に現れ、自律性が主体性よりも高次の概念であるとする、自律性は児童が自らで主体的な取組みをコントロールする側面に現れるとの示唆を得た。

## 第4章 小学校教員が捉えるチームティーチングに関する質的研究

教員のチームティーチングの実際とその捉え方について質的に明らかにすることを目

的として、インタビュー調査を実施し、質的記述的分析を行った。

小学校教員のT2としての実践を含むチームティーチングの実践としては【教員同士のコミュニケーションがもたらす子どもと共に高め合う授業づくりの工夫】【T1を尊重しながら行う子ども全体・個別へのT2としての実践】の категорияが、小学校教員のチームティーチングに対する捉え方としては【学級・教科・特別支援教育に応じて行う1つの学級における複数教員での授業】【学び合うためのよい職場風土と意見交換の必要性】【子どもたちのために複数教員でよい授業を行う力量と困難さ】の категорияが抽出された。これより、教員は、多様な児童や教員の実態や学校の環境等に応じてチームティーチングを捉え、日々の授業や学習指導を実践している実際があるとの示唆を得た。

## 第5章 T2としてのチームティーチング実践とその評価

児童の主体性・自律性の育成を目指すことを目的として、T2としてのチームティーチングによる実践を実施しその評価を行った。

教員の連携と協力的な指導のもとでT2として計画的な手立てや相互作用における多様なきっかけ・刺激を意図したはたらきかけを行ったことが評価できるも、これが児童の主体性・自律性の育成に十分機能することには課題があるとの示唆を得た。また、児童個々の主体性・自律性の発揮に向け相互作用を活発化させることや学びづくりを工夫する必要性が示唆された。

## 第6章 成果と課題

本実践課題研究は、教育の大綱的基準や理念に掲げられる主体性・自律性概念と、これらの育成を目指したチームティーチングによる教育的なはたらきかけについて、理論と実践の往還によって学問的かつ実践的に探究したことが本実践課題研究における成果として挙げられる。しかしながら、本実践課題研究は、A小学校を対象とした事例的かつ限定的なものであり、結果の般化には限界がある。また、各文脈で育成を目指す児童の主体性・自律性概念の実践への結びつけや、T2の立場からの児童の主体性・自律性の育成に向けた学級集団に対する学習指導、チームティーチングの有効性についての検討には課題が残った。

## 第7章 結論

本実践課題研究は、小学校における子どもの主体性・自律性とチームティーチングにおけるT2としての教育実践の連関において、児童の主体性・自律性の育成を目指した学びづくりを達成した。T2の立場からの実践的探究により得られたチームティーチングにおける実践的知見や、学問的探究により得られた学校教育における子どもの主体性や自律性についての学問的示唆は理論と実践の往還が図られており、これからの学校教育における教育活動の充実に寄与するオリジナリティある資料として有用であるといえよう。